



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

見える人文・見えない人文？ オープンな人文学情報基盤が作る未来

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
後藤真

アウトライン

1. 機関が持つ特に人文学のプラットフォーム
2. 機関のプラットフォームは何を作ろうとしているのか
3. 可視化されない研究成果
4. オープンなデータがもたらす恩恵と悩み
5. 人文学を「見せる」ためには？



自己紹介

- 後藤真
- 国立歴史民俗博物館 准教授
- 2015年秋まで 人間文化研究機構本部
- その後、歴博に
- 専門は人文情報学（特に歴史資料のデジタル化）

機関が持つ人文学のプラットフォームの例 (下線のあるものがオープンデータ)

4

1. 東京大学史料編纂所・データベース群
2. 奈良文化財研究所・「木簡庫」
3. SAT（大正新脩大蔵経データベース）
4. nihiuINT
5. 国文学研究資料館・新日本古典籍総合データベース
6. 国立国語研究所・一連のコーパスセット
7. 国立歴史民俗博物館 khirin
8. HNG（漢字字体規範史データセット）および CHISE



特に人文の研究データの特徴

- 学術資源情報として 典拠が明確にたどれるように
- 資料そのものが読めるように
- 個別性が他分野に比しても強い
 - 個別の事実から組み立てる
- 学問的課題をベースにデータが構築される



例

WEBでひらく木簡の世界 /

木簡庫

Wooden Tablet Database

English
簡体中文
繁體中文
한국어
奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

木簡庫とは
使い方
ヘルプ

0
いいね!
Tweet
シェア
B! 2

木簡をさがす

すべて
本文
カテゴリー (意味検索)

文字画像をさがす

テキストから
画像から
MONZO

キーワード

項目検索

▼ 内容
▼ 国名
▼ 木簡の形
▼ 出典
▼ 年紀・人名
▼ 大きさ・樹種等
▼ 遺跡

① お知らせ 毎月第4水曜日 12~14時の間は定期メンテナンスのため、サービスを一時停止いたします。

2018/03/22 公開しました **NEW**

木簡庫とは

使い方

ヘルプ

登録点数：53994

連携検索 (テキストから)
木簡・くずし字 解説システム

MONZO

奈良文化財研究所
木簡人名データベース

古代地名検索システム

全国木簡出土遺跡・
報告書データベース

全国遺跡
報告総覧
Comprehensive Database
of Archaeological Site Reports in Japan

Copyright(c) 奈良文化財研究所 All Rights Reserved.

■検索条件：《すべて検索》：【検索文字】なし，【型式番号】031型式

ダウンロード

表示件数：16

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 次へ

すべての検索結果：708件

本文	寸法(mm)			▲型式番号	出典	遺跡名
	縦	横	厚さ			
卅丘	116	(29)	6	031	木研24-11頁-(2)(東大寺防災-(1744))	東大寺
□□(木津カ)◇□	204	32	6	031	飛鳥藤原京1-136(荷札集成-181・飛20-31...	飛鳥池遺跡南地区
依地評／都麻五十戸／	147	34	3	031	飛鳥藤原京1-133(荷札集成-197・木研24-2...	飛鳥池遺跡南地区
次評／新野五十戸／土	158	31	3	031	飛鳥藤原京1-132(荷札集成-190・木研24-2...	飛鳥池遺跡南地区
丁亥年若狭小丹評○／	197	30	3	031	飛鳥藤原京1-18(荷札集成-124・木研21-27...	飛鳥池遺跡南地区
海評／◇□□□(五	136	32	3	031	飛鳥藤原京1-19(荷札集成-186)	飛鳥池遺跡南地区
・賀賜評塞課部里・人	195	34	5	031	飛鳥藤原京1-20(荷札集成-221・木研21-27...	飛鳥池遺跡南地区
・加夜評阿□□(蘇里	166	32	4	031	飛鳥藤原京1-21(荷札集成-218・木研21-27...	飛鳥池遺跡南地区
丁丑年十二月次米三野	146	31	4	031	飛鳥藤原京1-193(荷札集成-105・木研21-1...	飛鳥池遺跡北地区
重布	(63)	21	3	031	飛鳥藤原京1-228	飛鳥池遺跡北地区
○□□○月卯卯\大大	162	41	5	031	飛鳥藤原京1-259	飛鳥池遺跡北地区
次評／上部五十戸巷宜	168	27	5	031	飛鳥藤原京1-196(荷札集成-192・木研21-1...	飛鳥池遺跡北地区
・陽沐戸海部佐流・調	152	19	5	031	飛鳥藤原京1-199(荷札集成-301・木研21-1...	飛鳥池遺跡北地区
□二□二	102	24	4	031	飛鳥藤原京2-3618	藤原京左京十一條三坊西南坪(雷丘北方遺跡)
□□□□山賀□尔□	118	19	4	031	飛鳥藤原京2-3617	藤原京左京十一條三坊西南坪(雷丘北方遺跡)
尾張国海部郡魚鯨三斗	172	20	5	031	飛鳥藤原京2-3607(日本古代木簡選・木研1...	藤原京左京六條三坊西北坪

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 次へ

■添付画像



▼さらに見る

■詳細

URL	https://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/6AJCLJ470101	
木簡番号	3607	
本文	尾張国海部郡魚鯔三斗六升	
寸法(mm)	縦	172
	横	20
	厚さ	5
型式番号	031	
出典	飛鳥藤原京2-3607(日本古代木簡選・木研10-19頁-(1)・ 飛8-12上(18))	
文字説明		
形状	上削り、下削り、左削り、右削り。上下の左右に台形の切り込みあり、幅は上部は狭いが下部は広い。	
樹種	檜	
木取り	板目	
遺跡名	藤原京左京六条三坊西北坪	
所在地	奈良県橿原市木之本町	
調査主体	奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部	
発掘次数	飛鳥藤原第54-1次	
遺構番号	SD4130	
地区名	6AJCLJ47	
内容分類	荷札	
国郡郷里	尾張国海部郡	
人名		
和暦		
西暦		
木簡説明	四周削り。上下の左右に台形の切り込みがあり、幅は上部は狭いが、下部は広い。	

日本橋

English >

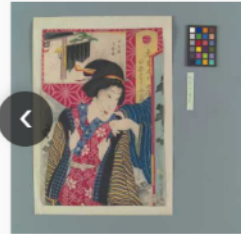
khirinについて >

サインイン



東京三十六会席 日本はし小菊 日本橋千栄楼

9



資料名称

東京三十六会席 日本はし小菊 日本橋千栄楼

[館蔵資料\(1件\)から探す >](#)

コレクション名

錦絵コレクション

画工名

豊原国周

[館蔵錦絵\(133件\)から探す >](#)

画工署名

国周筆 年玉印

[館蔵錦絵\(84件\)から探す >](#)

版型

大判

[館蔵錦絵\(1,770件\)から探す >](#)

法量

35.1×23.8

形態

縦

[館蔵錦絵\(1,722件\)から探す >](#)

彩色	錦絵 館蔵錦絵(2,027件)から探す >	10
版元名	万屋孫兵衛 館蔵錦絵(33件)から探す > 歴民カード・歴史・公開用(2件)から探す >	
版元住所	日本橋通一丁目 館蔵錦絵(27件)から探す >	
和暦	明治3年11月 鳴門教育大学附属図書館所蔵後藤家文書(10件)から探す > 館蔵錦絵(2件)から探す >	
西暦1	1870 鳴門教育大学附属図書館所蔵後藤家文書(58件)から探す > 館蔵錦絵(22件)から探す > 歴民カード・歴史・公開用(16件)から探す >	
西暦2	0 歴民カード・歴史・公開用(15,793件)から探す >	
改印	午十一改	
主題分類	美人画 館蔵錦絵(286件)から探す >	
内容分類	芸妓 料理茶屋 館蔵錦絵(2件)から探す >	
	東京	

その他の固有件名	千栄楼 料理茶屋
英文名称	Thirty-six Restaurants in Tokyo: Kogiku of Nihonbashi, Senei-ro
英文画工	Toyohara Kunichika 館蔵錦絵(131件)から探す >
版元英文	Yorozuya Magobei 館蔵錦絵(32件)から探す >
英文分類	Beauties 館蔵錦絵(275件)から探す >
画像リンク	https://khirin-i.rekihaku.ac.jp/mirador/?m=https://khirin-i.rekihaku.ac.jp/manifests/nishikie/H-22-1-18-22.json
ライセンス	CC BY 4.0
利用詳細	http://www.metaresource.jp/about-khirin/
所蔵機関	国立歴史民俗博物館



H-22-1-18-22

特に人文の研究データの目的

- 人文系の研究インフラとなるデータ構築と社会的共有の重要性→基本
 - 研究の促進→資料発見の速度と広がりの変化
 - 分野間連携→異分野から情報を見つけられる重要性・（ex 歴史災害研究）
 - 国際発信→日本が見えない現在
→事例はあげたが不足する資料はとにかく多い
- 目録・画像・テキスト
 - 目録と画像が先行
- 資料・経過・成果
 - 成果が先行　ただし論文と書籍は課題
 - ファクトデータベースは多い...？



少し話題を変えて...

人社系の研究成果評価の課題と現状（見えない人文の問題）

- 国立大学運営費交付金配分の「衝撃」
- 人文社会系の研究は計量的には測れないのか？
 - 半分はあたっている　しかし、半分しかあたっていない
- 研究成果は文章で書かれているということは、自然科学でも、工学でも、人文社会科学でも同様→一定の計量方法はある　しかしデータがない！
- もちろん、他分野と同一線上では測れない
- これまでに、それらの論点を整理してきた
 - 著書・著者数・言語・論文の引用速度など



論文の記述内容に着目した、解析とマッピングによる人文研究の成果表示システムの構築 (人文系サイエンスマップ) Science Map In the Humanities

ねらい

- ・ 人文系の研究成果を可視化すること
- ・ 特に量ではなく、その質と多様性に注目
- ・ これまでと異なる「研究世界」の創出

手法

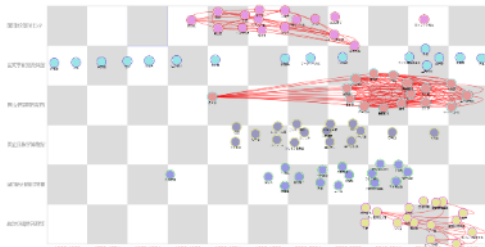
- ・ 人文機構のリポジトリにある論文（約**15000**本）をクロールしスキャン
- ・ テキストデータをもとに類似の用語をクラスタリング
- ・ クラスタリングしたものを平面上におとしこむ

※ある検索キーワードを入れ、そのマップを表示

検索キーワード

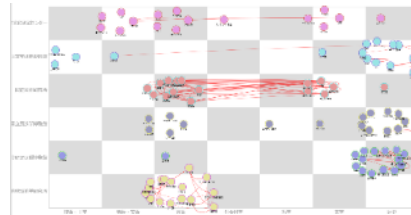
検索

例1：鹿児島・方言で検索



機関別クラスタリング表示（横軸：年代 縦軸：機関）

- ・ 国語研（上から3つ目）は**2000**年代後半から関連性の強い研究を集中的に出している
- ・ 民博（上から4つ目）は中心的ではない地域の言語研究がコンスタントに行われる
- ・ 日文研は**2000**年前後に多く研究があるが、近年はあまり対象としていない



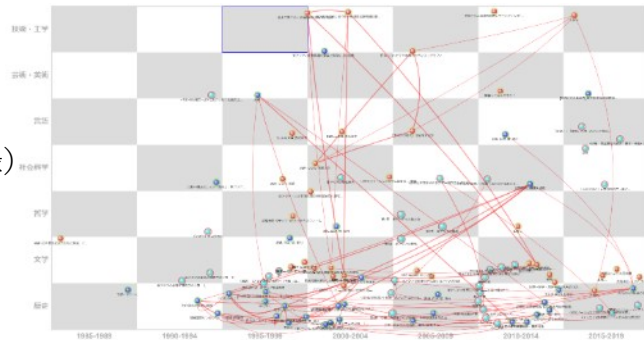
分野別表示（縦軸：研究分野 縦軸：機関）

- ・ 国語研（赤）は言語学に集中した研究である一方で日文研（ピンク）の分野は広い。
- ・ 民博・歴博（青）は言語と歴史の両分野にまたがる

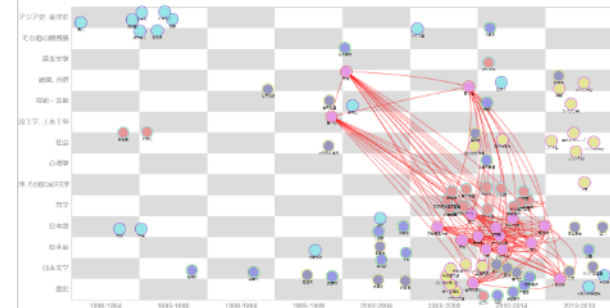
例2：東アジアで検索

論文1件ごと分割表示
(3機関のみ・縦軸：分野
横軸：年代)

- ・ 歴博は歴史中心（濃い青）
- ・ 日文研も歴史が多い（青緑）
- ・ 民博は分野横断型（赤）



詳細分野別表示（6機関） 機構全体では**2000**年代後半から、より広い分野を対象とした研究が増えている



特徴

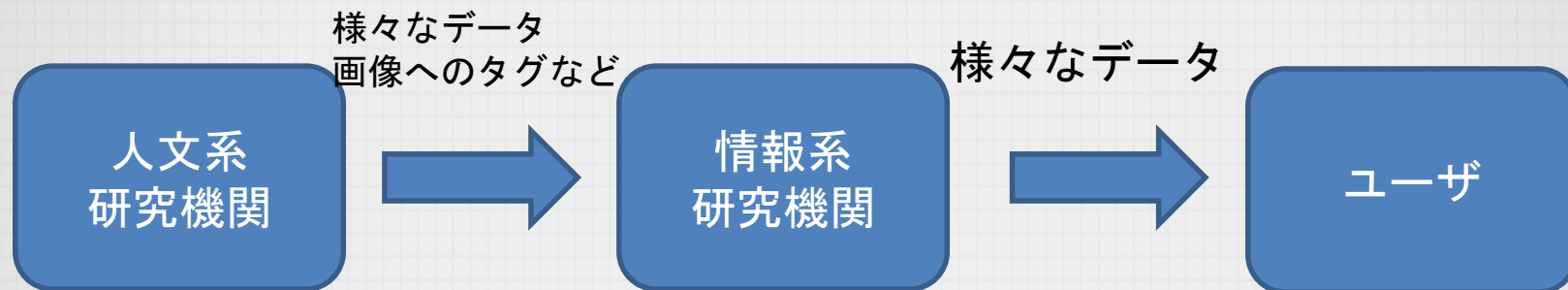
- ・ 研究の傾向が年代別・機関別・分野別などから分析
- ・ 単純な論文の量や引用等ではない、研究の広がりをつながりをおきらかに
- ・ リポジトリへのリンクもあるので、リポジトリのマップ上検索システムとしても利用可能
- ・ クローリングは他大学等のものも可能であり、今後は他大学等との関係性分析などを実施予定

課題一オープン化後のあるべき姿とは？

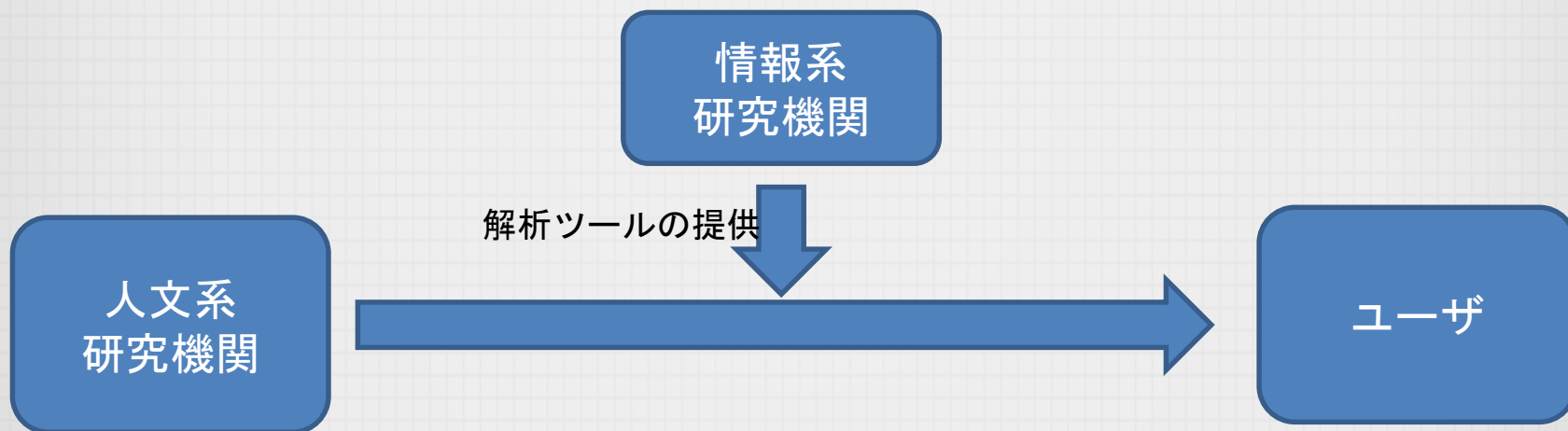
- これらのデータを「オープン化する」という動きは非常に強い→しかし、課題がないわけではない
- 人文系のデータを人文研究の形に即してデータ化
 - 思考モデルの転換の必要性（cf:北本）
 - 文化的側面
 - これまでと異なるユーザ層（情報学の研究者？ 非研究者のうち特に学問的訓練などを受けないよりライトな層）
 - データの出し方が「変わる」→人文学の成果に即したデータベースは「使いにくい」部分も
 - では、単純な資料データを出すのか？？



DHにおける下請け問題

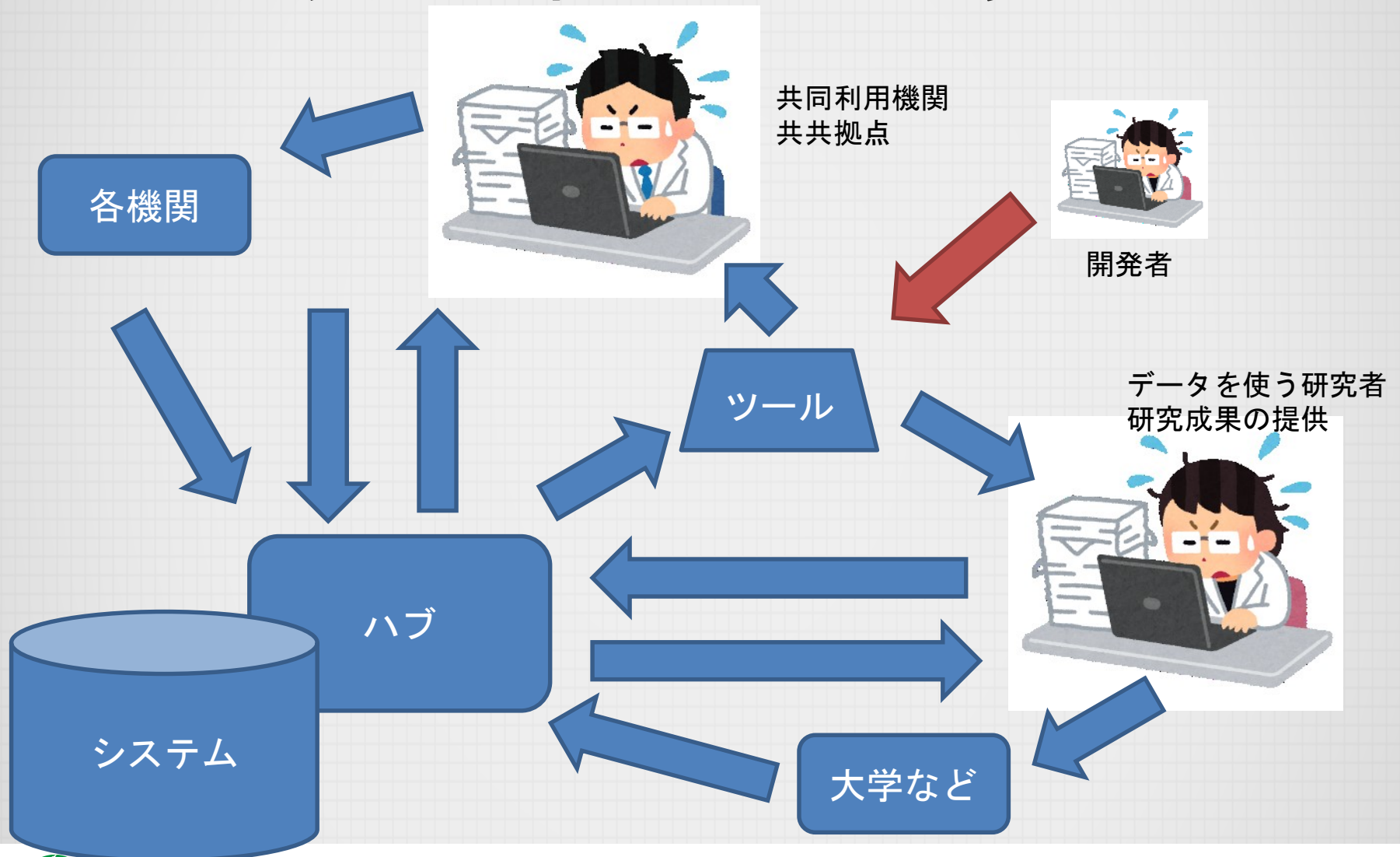


- 単に人文学がデータを作る下請けになる



- 単に情報学が人文系の課題解決のための「業者」になる

資料データの ハブ・プラットフォームはどこにあるべきか？



見せるべきものは何か？

- 人文学の資料そのものの可視化
 - 資料数の絶対的不足 わかりやすいデータ／わかりにくいデータ 研究資料として必要なもの／閲覧するだけのもの
- 人文学の研究成果の可視化
 - 論文も見えない 書籍はもっと見えない 他のものは？
- 人文学の研究プロセスとは？？
 - 実は人文学の研究の「考え方」そのものが見えていないかもしれない



オープン化と学問自体の抱える問題

- 資料・成果・プロセスの可視化不在
 - 特に成果やプロセスの可視化ができていない
 - このこと自体が学問としての無理解を生む可能性も
- しかし、これらのプロセスをうまく含む情報基盤や資料の出し方とはどのようなものか？
- 人文系研究機関と情報系研究機関の効果的な連携
- 誰が、どのようにデータを出すのかを考えなければならない時代に

原則として

- 人文学の研究の可視化を機関として進める必要
 - 個別研究は（おそらく他分野に比しても）よく見えている
 - では、全体をどう見せるのか？→多様性を確保するためには業界全体の「厚み」が必要（歴史学の多様性を確保するためには、そもそも歴史学の研究者が一定数いなければならない）
 - この厚みを可視化し、社会の理解を得ることが学問全体の活性化にもつながる

